

# ヤマトモンシデムシ

*Nicrophorus japonicus* Harold  
コウチュウ目・シデムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

かつては平地の里山や住宅地にふつうに見られる種であったが、現在では生息環境が全国的に限られる。県内では1977年以降記録がないと思われるが、調査不足の面も否めず、河川敷等での調査により新たな生息地が見つかる可能性もあることを考慮し、要注目とした。

## 種の特徴

体長14～25mm。背面は黒色で赤い紋がある。後脛節は明瞭に湾曲し、触角の球桿部は先端3節が橙色。河川敷の草原や休耕田を含む水田地帯、荒地等に生息し、死んだ哺乳類を餌とする腐食性だが、詳細な生態は不明。

## 分布

本州～九州に分布。県内では三国町池見、旧坂井町今井での記録がある。高浜町“和田村”にも戦前の記録がある。

## 生息を脅かす要因

本種が生息する環境は開発の対象となりやすく、開発による生息地の消失が脅威となる。県内での生息の詳細な把握が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、上野ら（1985）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○								○						

# ルリクワガタ

*Platycerus delicatulus delicatulus* Lewis  
コウチュウ目・クワガタムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

希少種。県内では奥越の山岳地帯で確認されているが、2000年以降記録がない。自然度の高いブナ林の指標種とされており、県内のブナ林の状態をモニタリングしていく意味でも今後も本種の動向を注視していく必要がある。

## 種の特徴

体長約13mm。オスでは体色は青～緑青色だが、緑色、緑黄銅色のもの等がある。メスでは体色は青緑色～藍色。ブナ林やミズナラ林等標高1,000m以上の落葉広葉樹林に生息し、成虫は5月下旬～7月中旬にみられる。メスはブナ、ミズナラ等の白色腐朽材及び軟腐朽材に産卵する。

## 分布

本州～九州に分布。県内では大野市刈込池、池ヶ原、荒島岳、旧和泉村朝日前坂、平家平での記録がある。

## 生息を脅かす要因

ブナ林の伐採等が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、羽田ら（2000）、岡島・荒谷（2012）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

# マダラクワガタ

*Aesalus asiaticus asiaticus* Lewis  
コウチュウ目・クワガタムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

希少種。今回の調査で南越前町から新たな生息地が確認されたが、これまでの県内での確認地点は3地点のみで、生息に関する情報は不足している。本種を情報不足または要注目としてレッドリストに掲載する自治体もいくつかあり、本県でも生息状況の把握のために注視が必要である。

## 種の特徴

体長オス4.0～7.0mm、メス4.0～6.0mm。国内最小のクワガタムシ。体色は褐色。体高が高く体は卵形で、背面には黄色い鱗片状の毛がある。成虫は6～9月に活動。羽化後に食べることはせず、樹液には集まらない。サクラ、カツラ、ツバキ等の褐色腐朽材に産卵する。

## 分布

北海道～九州に分布。県内ではこれまで大野市鷲鞍岳、池ヶ原で記録があり、今回南越前町今庄から見つかった。

## 生息を脅かす要因

県内での生息状況が把握できていない。本種は山地性の種で、ブナ林を中心に標高約700～1,000m付近に分布するが、良好な照葉樹林が発達する地域では比較的低地にも生息するとされている。調査の継続が望まれる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、岡島・荒谷（2012）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○								○	